

MURC 政策研究レポート

外国人旅行者の購買動向にかかる定点観測調査
(平成 22 年 9 月)

株式会社インジェスターとの共同企画により毎月実施している「外国人旅行者の購買動向にかかる定点観測調査(平成 22 年 9 月)」について、その結果概要を紹介する。

【結果概要】

回答のあった旅行者の状況について(不明者を除いた比較)

1. 回答者数は 217 名で、前月 206 名から 5% 増である。1 日あたり 31.0 名で、前月 17.2 名から 80.2% 増である。
2. 性比(*1)は 146 で、前月の 108 に比べて女性比率が激減している。
3. 平均年齢(*2)は 41.8 歳で、前月の 39.1 歳より上昇している。40 歳代、50 歳代、60 歳代の構成比が上昇し、30 歳代以下が大幅に減少している。最頻値は 40 歳代となり、前月の 30 歳代から高齢化している。
4. 回答者に占める中国人比率は 57.3% で、前月の 49.7% から 7.6 ポイント増と大きく増えている。

旅行者の旅行行動について(不明者を除いた比較)

1. 主な渡航目的は「観光」69.6%、「業務」19.3%であった。その他の回答では「乗継」が 6.6% 観測されている。
2. 渡航目的が「観光」の旅行者のうち、団体旅行者が 56.7% を占めている。
3. 訪問先は「秋葉原」56.3%、「銀座」45.1%、「新宿」35.2%、「浅草」22.5%、「お台場」21.1% の人気が高い。その他の人気観光地では、「横浜」「東京ディズニーリゾート」はともに 2.8% に留まった。関西圏では「大阪」12.7%、「京都」11.3% となっている。

旅行者の購買動向について(不明者を除いた比較)

1. 空港免税店で何らかの商品を購入したうち、あらかじめ、購入予定だった人は 47.0% である。
2. 商品を自分用に購入した人は 74.6%、お土産用に購入した人は 41.4% である。お土産用の内訳は、家族向け、友人向け、同僚向けの順である。

今月のトピックス: 人気観光地の集客特性と観光地間回遊状況について

1. 30 歳代以下に人気の「新宿」「銀座」に対し、「お台場」「浅草」は比較的年齢層が高い訪問者が多い。
日本人の考える街のイメージと外国人旅行者の訪問先に大きなずれがみられている。
2. 「銀座」「新宿」「浅草」訪問者の 3 人に 2 人は「秋葉原」も訪問、「お台場」は半数、「箱根」は 3 人に 1 人である。
観光地としての性質の類似性と、地理的近接性によって、回遊ルートが形成されている。

*1 性比 = 男性数 / 女性数 × 100

*2 20 歳代以下は 24.5 歳、30 歳代は 34.5 歳、40 歳代は 44.5 歳、50 歳代は 54.5 歳、60 歳代以上は 64.5 歳を代表年齢として算出。

三菱UFJリサーチ & コンサルティング株式会社

政策研究事業本部(東京)公共経営・地域政策部 主任研究員 妹尾 康志
研究員 中田 雄介

〒108-8248 東京都港区港南 2-16-4

TEL: 03-6711-1242 / FAX: 03-6711-1290

外国人旅行者の購買動向にかかる定点観測調査 (平成 22 年 9 月)

株式会社インジェスターとの共同企画による「外国人旅行者の購買動向にかかる定点観測調査(平成 22 年 9 月)」の概要は、下記の通りである。

【実査概要】

調査期間:平成 22(2010)年 9 月 27 日～10 月 3 日 7 日間
調査方法:調査員による対面式インタビュー
調査対象:出国予定の外国人旅行者
調査場所:成田空港
回答者数:217 名
調査担当:三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社(設計および分析)
株式会社インジェスター(実査および集計)

【結果概要】

回答のあった旅行者の状況について(回答不明者を除いた比較)

1. 回答者数は 217 名で、前月の 206 名から 5%増である。1日あたりでは 31.0 名で、前月の 17.2 名から 80.2%増である。
2. 性比(*1)は 146 で、前月調査の 108 に比べて女性の構成比が激減している。
3. 平均年齢(*2)は 41.8 歳で、前月調査の 39.1 歳より上昇している。40 歳代、50 歳代、60 歳代の構成比が上昇し、若年層が大幅に減少している。最頻値は 40 歳代となり、前月調査の 30 歳代から高齢化している。
4. 回答者に占める中国人比率は 57.3%で、前月調査の 49.7%から 7.6 ポイント増と大きく増えている。一方で韓国人は 10.2 ポイント減と大きく減少した。

旅行者の旅行行動について(回答不明者を除いた比較)

1. 主な渡航目的は「観光」が 69.6%で最も多く、「業務」19.3%であった。その他の回答では「乗継」が 6.6%観測されている。
2. 渡航目的が「観光」の旅行者のうち、団体旅行者が 56.7%を占めている。
3. 日本での訪問先としては、「秋葉原」が 56.3%と過半数に達している。次いで「銀座」45.1%、「新宿」35.2%、「浅草」22.5%、「お台場」21.1%の人气が高い。人気観光地のなかでは、「横浜」「東京ディズニーリゾート」はともに 2.8%に留まった。関西圏では「大阪」12.7%、「京都」11.3%となっている。

旅行者の購買動向について(回答不明者を除いた比較)

1. 空港免税店で何らかの商品を購入したのは 90.3%に達しているが、そのうち空港免税店での購入をあらかじめ予定していた商品があった人は 47.0%、特に予定していなかった商品を購入した人は 53.0%である。
2. 自分用に購入した商品がある人は 74.6%であり、お土産用に購入した商品がある人は 41.4% である。お土産用の内訳は、家族向け、友人向け、同僚向けの順である。

*1 性比 = 男性数 / 女性数 × 100

*2 20 歳代以下は 24.5 歳、30 歳代は 34.5 歳、40 歳代は 44.5 歳、50 歳代は 54.5 歳、60 歳代以上は 64.5 歳を代表年齢として算出。

【集計結果】(*1)

1. 旅行者に関する観測結果

→ 性別

n = 217	男性	女性	不明
	127	87	3
比率	58.5%	40.1%	1.4%
不明者を除いた比率	59.3%	40.7%	-

→ 年齢別

n = 217	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	不明
	27	53	81	38	7	11
比率	12.4%	24.4%	37.3%	17.5%	3.2%	5.1%
不明者を除いた比率	13.1%	25.7%	39.3%	18.4%	3.4%	-

→ 国・地域別

n = 217	韓国	中国	台湾	その他 アジア	欧米	その他	不明
	16	114	6	28	25	10	18
比率	7.4%	52.5%	2.8%	12.9%	11.5%	4.6%	8.3%
不明者を除いた比率	8.0%	57.3%	3.0%	14.1%	12.6%	5.0%	-

2. 旅行行動に関する観測結果

→ 主な訪日目的

n = 217	観光	業務	乗継	その他	不明
	126	36	12	7	36
比率	58.1%	16.6%	5.5%	3.2%	16.6%
不明者を除いた比率	69.6%	19.9%	6.6%	3.9%	-

→ 訪日目的が「観光」の場合の旅行形態

n = 126	個人旅行	団体旅行	不明
	52	68	6
比率	41.3%	54.0%	4.8%
不明者を除いた比率	43.3%	56.7%	-

→ 日本での訪問先(複数回答可)

n = 217	秋葉原	銀座	新宿	浅草	お台場	その他	不明
	40	32	27	16	15	13	146
比率	18.4%	14.7%	12.4%	7.4%	6.9%	6.0%	67.3%
不明者を除いた比率	56.3%	45.1%	38.0%	22.5%	21.1%	18.3%	-

【少数意見】

東京タワー11、六本木10、渋谷9、大阪9、上野8、京都8、原宿・明治神宮7
東京ディズニーリゾート2、横浜2、その他の観光地7

3. 購買行動に関する観測結果

→ 空港免税店での購買行動

n = 217	購入した	購入していない
	196	21
比率	90.3%	9.7%

→ 購入予定商品の有無

n = 196	はい	いいえ	不明
	164	29	3
比率	83.7%	14.8%	1.5%
不明者を除いた比率	47.0%	53.0%	-

→ 商品の購買目的(複数回答可)

n = 196	自分用	お土産用	その他	不明
	126	70	4	27
比率	64.3%	35.7%	2.0%	13.8%
不明者を除いた比率	74.6%	41.4%	2.4%	-

(お土産用の内訳:複数回答可)

n = 70	家族用	友人用	同僚用	不明
	20	12	2	44
比率	28.6%	17.1%	2.9%	62.9%
不明者を除いた比率	76.9%	46.2%	7.7%	-

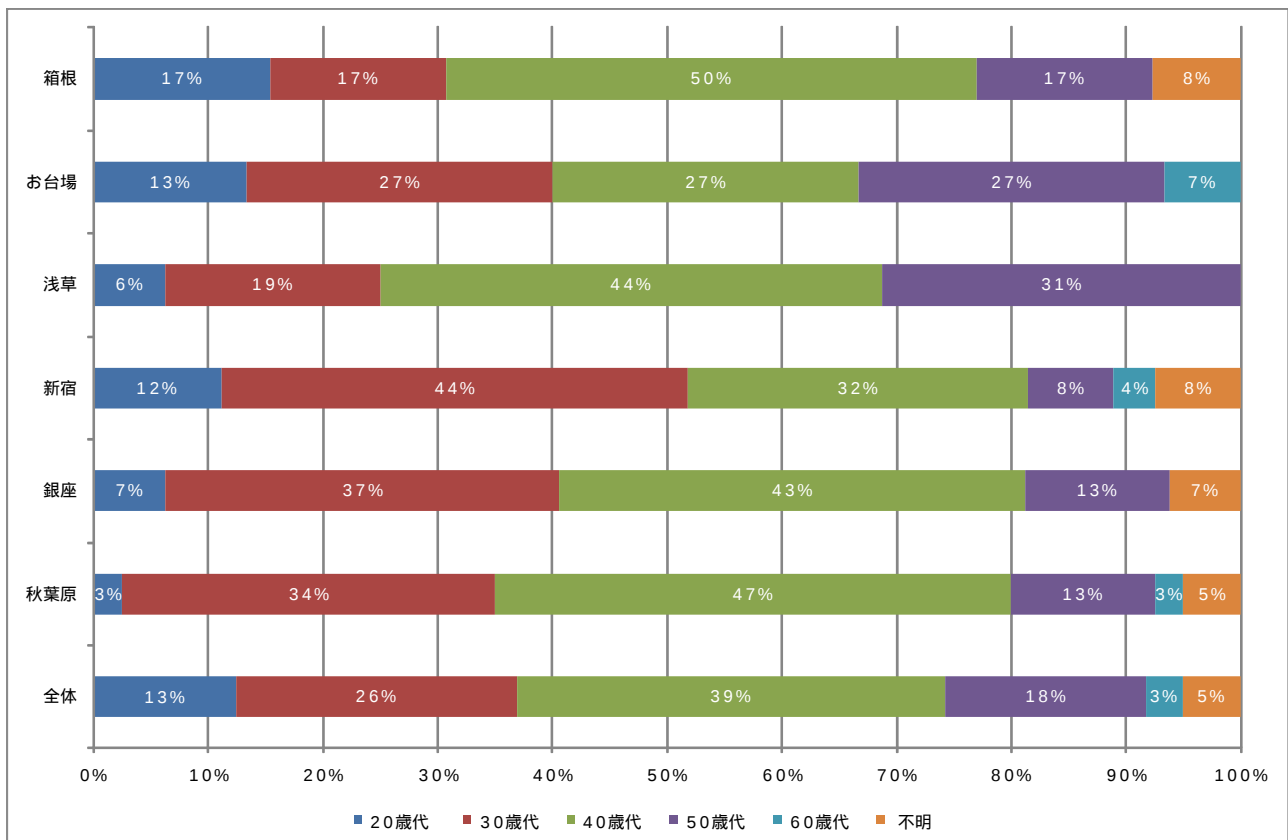
*1 端数調整の関係で、比率の合計は100%にならない場合がある。

【今月のトピックス】 テーマ:人気観光地の集客特性

1. 30歳代以下に人気の「新宿」「銀座」に対し、「お台場」「浅草」は比較的年齢層が高い訪問者が多い。

外国人旅行者全体では30歳代以下の若年層訪問率は39%であるが、「新宿」で56%、「銀座」で44%に達する一方、「浅草」は25%、「箱根」は34%に留まっている。一方で50歳代以上訪問率をみると、全体では21%のところ、「お台場」は34%、「浅草」で31%となっている。

図表 「日本での訪問先」×「年齢」



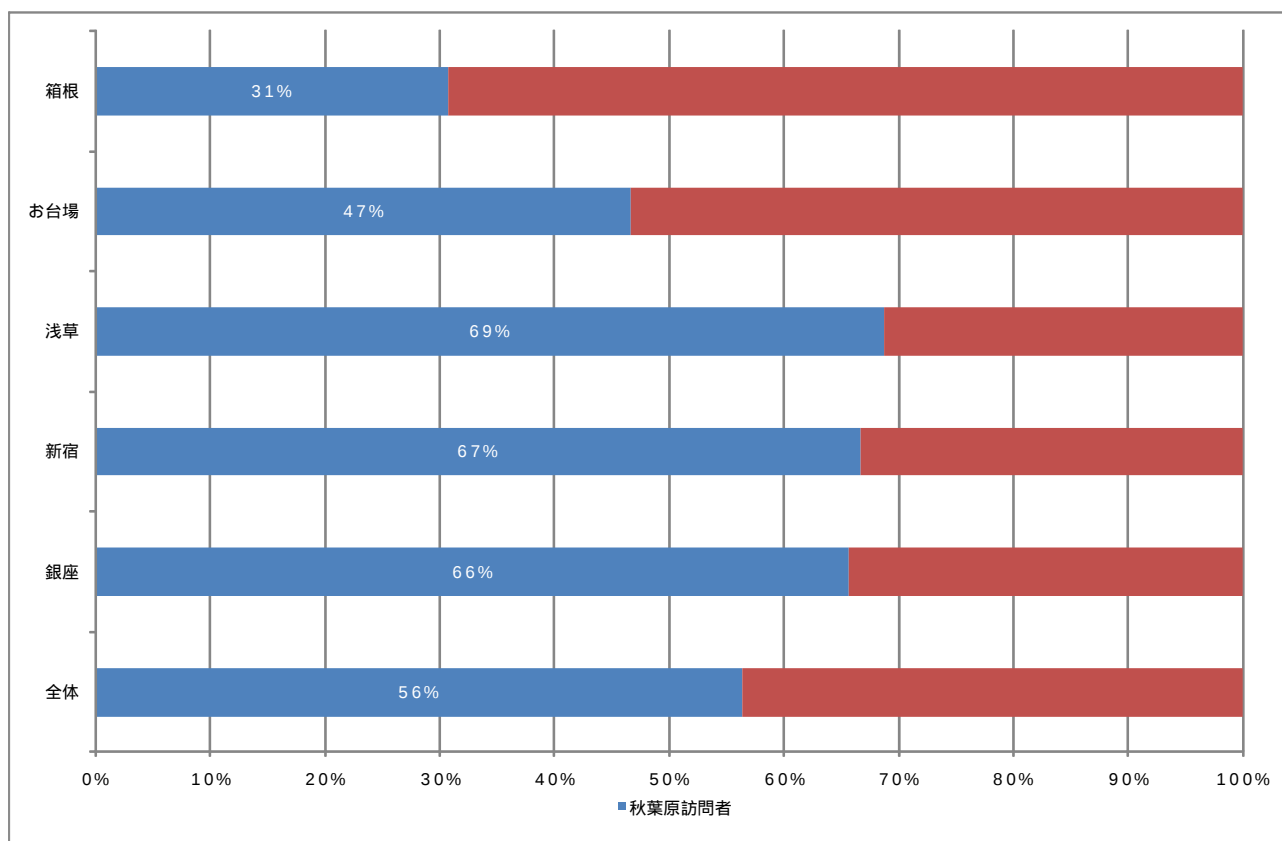
一般には大人の街と認識される「銀座」が若年層に人気があり、若者が多いイメージの「お台場」に比較的年齢層が高い観光客が訪れ、20歳代以下の訪問率で「箱根」が最も高く「秋葉原」が最も低いなど、日本人の考える街のイメージと外国人旅行者の訪問先に大きなずれがみられている。

「秋葉原」「銀座」「新宿」のようなショッピング街を訪問する人々は、訪日目的が買い物であって購買意欲の高い30歳代が中心となるためと考えられる。一方で、「浅草」「お台場」「箱根」のような家族連れでも楽しめる観光地の場合、比較的年齢層の高い人々とその子どもによる訪問がみられ、中間に位置する30歳代が少なくなるためと考えられる。

2. 「銀座」「新宿」「浅草」訪問者のうち3人に2人は「秋葉原」も訪問している。「お台場」「箱根」は3人に1人である。

外国人旅行者全体で「秋葉原」を訪問したのは56%と過半数となっている。他の観光地の訪問者を「秋葉原」を訪問した人／していない人に区分すると「浅草」69%、「新宿」67%、「銀座」66%となっており、3人に2人が「秋葉原」にもあわせて訪問している。一方、「お台場」47%、「箱根」31%で、「秋葉原」とあわせて訪問する人の割合はそれぞれ2人に1人、3人に1人まで低下している。

図表 「日本での訪問先（秋葉原）」×「日本での訪問先（秋葉原以外）」



「新宿」「銀座」は取扱主力商品こそ異なるものの、「秋葉原」と同様にショッピング街であり、買い物目的の観光客があわせて訪問していると考えられる。「浅草」はやや趣きが異なるが、地理的近接性から回遊ルートが構築されている。一方、「箱根」は「秋葉原」と距離が離れていること、観光地としての性質が異なることの双方の観点から、あわせて訪問する観光客は比較的少ない。「お台場」は「秋葉原」と距離的にそれほど遠くないものの、街の性質が異なり、両観光地の回遊がうまくていないことによって、あわせて訪問する観光客が少なくなっていると考えられる。

- ご利用に際して -

- 本資料は、信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一した見解を示すものではありません。
- 本資料に基づくお客様の決定、行為、及びその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所を三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社および株式会社インジェスター共同企画「外国人旅行者の購買動向にかかる定点観測調査」と明記してください。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要です。当社までご連絡下さい。